

別添資料 3

令和元年度 学力向上交流会

令和元年 11月20日 (水)

鴨川市立西条小学校

問題場面を理解し進んで解決する子の育成
～自分なりの考えをもち、友だちと関わる活動を通して～

1 学校紹介

【鴨川市立西条小学校 9学級（特別支援学級含）全校児童179名】

本校は、鴨川市の中心部に隣接した地域にあり、近くには、福祉作業所やデイサービス施設、公民館等がある。もともと農村地帯であり、米作りや花栽培などがさかんであるが、近年は市内中心部への利便性もあり、住宅地や商業施設が増加している。

保護者の教育への関心は高く、PTA 活動も自主的で活発である。同時に子ども会育成会の活動が地域に根付いており、子どもの健全育成に大きな役割を果たしている。

2 学力の状況

学年によって学力の状況に大きな差が見られる。全国学力・学習状況調査の結果においても、年度によって大きな違いがある。

一昨年度より、算数科を中心に「自分の考えを持ち、友達と関わって問題解決する子の育成」をテーマに校内研究に取り組んできた。学習に主体的に取り組む姿については、一定の成果を得ることができているものの、B 問題のように知識を活用し問題を解決することに対し、苦手意識を持っている児童が、依然として多くみられる。

このことから、知識を活用する力を高めるための指導や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことが、本校における課題であると考えている。そのため学力向上に向けた継続的な検証サイクルを確立し、学習指導における課題の解決に学校全体として取り組んでいく必要がある。

3 学力向上のための取り組み

(1) 校内研修

本校の実態、授業改善の視点から、校内研修のテーマを設定した。

問題場面を理解し進んで解決する子の育成
～自分なりの考えを持ち、友達と関わる活動を通して～

「自分なりの考えを持つ」とは…問題解決の糸口となる『考えの跡』を記述すること。

- ・考えの跡＝式、図表、言葉、文、下線、矢印、吹き出し、メモ、注意事項、ポイント、予想等

「友達と関わる」とは…『インプットからアウトプットへ』を行うこと。

- ・友達や教師の説明のポイントを見つけ、記録する。
- ・見せてわかるノート作りをし、友達と意見交換をする。

- ・友達と話し合いをする。(ペア、グループ、全体、で発表や復唱)
- ・授業でわかったことを、文章にしてまとめる。

(2) 授業研究会の実施

研修テーマに基づいた授業研究会を行う。校内の職員で見合うだけでなく、全国学力・学習状況調査において課題が見られた学習内容を指導する当該学年は、指導主事を招いた指導案検討や授業研究会を行い、指導を受ける。また、指導主事を招く授業研究会には、鴨川市の学力向上推進委員とも連携し、「授業改善」の視点で協議会を行うことで、学力向上に関する協議を充実させ、市全体として学力の向上を目指していく。

(3) これまでの取り組みの継続・改善

- ①朝の15分間で行われる「学力向上タイム」
- ②家庭学習の様子を保護者とともに記録する「家庭学習チェックカード」(学期1回実施)
- ③各学年の実態に合わせた「自学」、自学ノートの交流
- ④正しい学習の習慣をつける「姿勢の指導」
- ⑤中学校区の共通実践「姿勢・声量・反応」
- ⑥タブレット、大型TV、実物投影機などの「ICT機器の有効活用」
- ⑦「校内指導体制」・・・TT、少人数指導
- ⑧児童自身が、学習に参加する態度に関するふりかえりアンケート(年2回実施)の活用。

4 取り組みの実際 … 【4年 角の大きさ】において

(1) 「考えの跡」を残す指導

①児童が悩む場面の解決策を練る。(教材研究)

- ☆わかる角度に線を引く習慣をつける。(90° 180° 270° 360°)
- ☆角度の予想をする。(「220° くらいかな。」)
- ☆範囲を狭める。(「180° ~270° の間」)
- ☆□° はこれくらいという量感を持つ。
- ☆予想と正解の差を比べる習慣を作る。(たしかめ)
- ☆角とは何かが生場面から想起できるようにする。

②「角の大きさ」の感覚作り

他教科とのつながり…柔軟



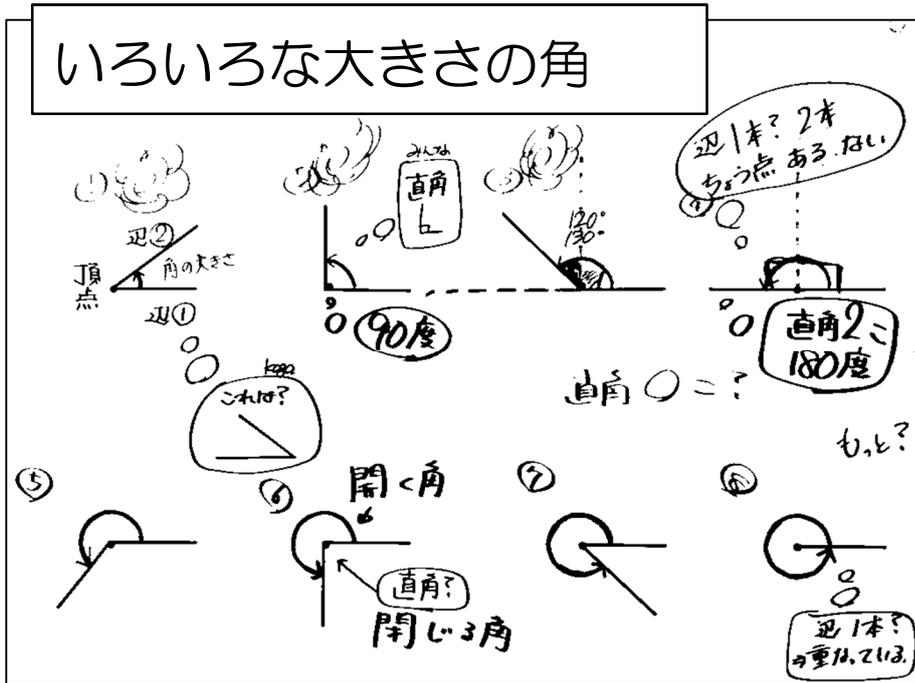
基礎感覚作り

- ・「直角運動」・・・直角いくつつ分
- ・「エレベーター運動」・・・(垂直と平行との関連)

教具作りの工夫

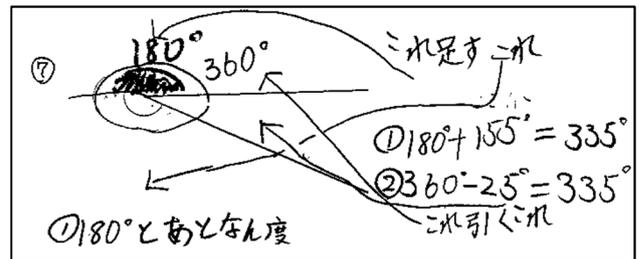
- ・より思考を広げるための扇(360°以上開く)

③学級全体で残した「考えの跡」



←学習する角を一斉に提示した。気づきや疑問を教師が記入していき、常に掲示をしておくことで、自分で本時の問題が選択できる児童もできた。
↓個々では、学習の苦手な児童でも、自己対話の文言をノートに記しながら考えを進める児童が増えた。

④個人で残した「考えの跡」



(2) 友達と関わる指導

①学習問題の明確化

- ・児童から出る疑問から学習問題をつくる。
- ・「～には、どのようにしたらよいだろう？」で始まり、「～には、〇〇したらよい。」でまとめる。学習問題とまとめは会話文になることを、授業冒頭に確認する。

②児童が発言をする場面の確保

- ・日付や曜日を答えさせる。
- ・文章を書き終わった際の読み上げ
- ・「見通し」「比較検討」の場面
- ・「学習問題を見出す」「まとめの言葉づくり」の場面 等

③ペアやグループで話す事柄

- ・自分と相手との同じ点、相違点（ノート提示をしながら）

- ・その説明で通じるかどうかの確認
- ・「一緒に挙手ができるか」、「一緒に説明ができるか」の確認
- ・聞き手は、知らない素振りで質問をする役割演技。

⑤ 友達の意見の復唱

- ・「なんだって?」「どういうこと?」の問いかけを行う。…話の繰り返し
→ 友達の話への意識づけ
→ 教師が安易に「そうですね。」と相づちを打たない。
→ 「わかりません」の子を放っておかない。

⑥ 間違った意見の取り上げ方の工夫

- ・子どもに寄り添う言葉を使う。
「〇〇さんは、これはちがうと思っているらしい。どこだと思う?」
「〇〇さんは、さっきまではどう思っていたっけ?でも、途中で気づいたんだよね。」
「先生の今までの経験だと、□□と悩む人がいたけど、どう?」
「気持ちはわかる。昨日の学習を生かしたらそうなるよね。」
「(考えが持てている子に対して) 他の人はどこで迷っていると思う?」
- ・教師が間違えたことを言う。

5 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 問題に対して、気づきや疑問、希望を記入することができる児童が増え、問題場面の理解をしたり、解決の見通しを持つことできたりする児童が増えた。
- 自分で問題を解き進める際には、問題との対話や自身との対話を「考えの跡」として残せる児童が出てきており、自ら問題解決を進めることができる場面が増えた。
- 「考えの跡」や「友達との関わり」について、各学年の実態に合わせた実践が行われ、「授業改善」の視点で協議会を持つことができている。
- どのような言葉を「考えの跡」として残していき、どのように考えを進めることが、より学習の理解につながっていくのかをさらに明らかにしていく必要がある。
- 友達との関わりの中で、「わかりやすく話ぐできた。」と充実感を味わわせていくことが必要である。そのことが、より学習の理解につながっていくはずである。
- 全職員がより共通理解した上での日々の授業実践になるようにしていく必要がある。
- 数値の上昇といった、客観的な成果が見られるよう、今後もより改善を加えながら、研究を継続していく必要がある。